



《新・尼崎の本棚 95》

尼崎えびす神社

阪神尼崎駅より西に五分ほど歩いたところに尼崎えびす神社があります。倉持戎大宮や「ちぢみ」さんなどの別称がありますが、一般的には商売繁盛の神様として知られる「**尼のえべっさん**」と呼ばれ親やえことしるぬしおおかみ

まれています。創建は醍醐天皇時代以前と伝えられ、八重事代主大神(えびすさん)をご祭神としています。古代から漁業航海を守ってくださる海の神様として崇拝されており、漁業の盛んな町だった尼崎では深く信仰されてきました。毎年1月の十日えびす大祭ではたくさんの参拝者でにぎわいます。

以前は出屋敷にある貴布禰神社の南東に位置していましたが、昭和20(1945)年、家屋疎開の対象となり、現在の場所に移転しました。また、以前は事代主神社という名前でしたが近代に入り、えびす神社と改称されました。昭和34(1959)年に竣工した、高さ17mある朱色の大鳥居は神社のシンボルとなっています。

尼崎えびす神社を含む常楽寺、本興寺、長遠寺、法園寺、大覚寺、貴布禰神社の7つの寺では尼崎寺町七福神巡りを行うことができます。御朱印の色紙は尼崎出身の尼子騷兵衛さんの七福神イラストが描かれており、楽しみながら集めることができます。(参考:『京都・大阪・兵庫七福神めぐり』藤村郁雄/著

神戸新聞出版総合センター・『阪神沿線まちと文化の110年』阪神沿線の文化110年展実行委員会/編 神戸新聞出版総合センター)

◆ 商売繁盛の神、えべっさん

えべっさんのイメージは烏帽子を被り、タイと釣り竿をもった姿が一般的です。これは釣りをして生涯を過ごしたと想像されることや、後世に海にゆかりのある神様と混同され、現在のスタイルが定着しました。一本の釣り竿で慎ましく生活する清廉な姿から、現在では暴利をむさぼらない地道な商売の神様として信仰されています。

十日えびすの風習は、恵比須講という祭礼が由来で関西では1月に行われます。神社では縁起物を飾った福笹や熊手が販売されます。熊手が縁起物となったのは、江戸時代、熊手売りが神社に市を立てた際、福運と金を「かき集める」商売繁盛の縁起物として町民に売ったことがはじまりといわれています。農民の間では小正月に普段使っている道具を飾り豊作を願った風習があり、「招福熊手」の発想が生まれたのかもしれませんが。(参考:『福を呼ぶ・幸運を呼ぶ七福神』佐藤達玄/著 木耳社)

● 「七福神」についてならこんな本●

『京阪神七福神めぐりご利益さんぽコース』あんぐる/著 メイツ出版 212124828

『図説・七福神』戎光祥出版編集部/著 戎光祥出版 211619000

『七ふくじんとおしょうがつ』山末やすえ/著 教育画劇 221062025

<図書館の休館日> 印の日はお休みです

1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					



1月:睦月(むつき)

食べ物:ミズナ、コマツナ、ナガネギ、ユリネ、イヨカン、キウイ、シジミ、ホタテ
植物:カンツバキ、シクラメン、アザミ、ロウバイ、クリスマスローズ
季語:雪兔、氷柱、寒稽古、年越詣、白鳥、水仙、葉牡丹

開館時間 午前9時~午後8時(日曜・休日(○)は、午後5時15分まで)



明けましておめでとうございます
今年も 北図書館を
宜しくお願い致します



北図書館おみくじ

- 【日時】 1月8日(土)・1月9日(日)
- 【場所】 北図書館 1階カウンター
- 【定員】 各日、大人用50本、子ども用50本
計200本(先着順)
- 【申込】 不要

おみくじを引いて、今年の運勢を占おう！
本の貸出に来られた際に1人1本引くことが出来ます。
おみくじにはおすすめ本も載っています。



<1月展示のご案内>

一般大展示 本で免疫力アップ！
2階展示 きものあれこれ



青少年室の使い方

- ◆ 利用の前に座席券を
2階カウンターで座席利用券を取り、同じ番号の席をご利用ください。
券は席の見える所に置き、お帰りの際はカウンターまでお持ちください。
1時間以上席を離れる場合は一旦券をお戻しく下さい。
1時間以上不在の場合は、他の方に席をまわしますのでご了承ください。
- ◆ 座席券は1人1枚
後から来る友人の分を先に取ったり、1人で2席を使うことはできません。
- ◆ 飲食・雑談など
自習や読書のための部屋です。雑談や飲食、音の出る機器の使用はご遠慮ください。
また、イヤホン・ヘッドホンの音漏れ、電卓・キーボード等の打鍵音にもご配慮ください。
- ◆ 青少年室の利用は中学生から
小学生の方は児童室をご利用ください。
- ◆ 長時間ご利用の方
自転車は地下駐輪場にお停め頂くようご協力をお願いします。



- ◆ 急遽イベントを中止、または延期する場合があります。
- ◆ ご来館の際は感染症対策へのご協力をお願い致します。

大人のための朗読会

【日時】 1月19日(水) 午後2時から1時間ほど

【場所】 3階 集会室

【内容】 『仕事で大切なことはすべて尼崎の小さな本屋で学んだ』より

「エピソード〇なぜ本屋が傘を売り始めたのか？」

川上 徹也／著

朗読はボランティア「ま・どんな」のみなさんです。

※ 状況により、内容の変更・中止になる可能性があります。

人を読む 大崎 梢

東京都生まれ。元書店員。著書に『配達あかずきん』『ドアを開けたら』『空色の小鳥』『誰にも探せない』『横濱エトランゼ』『平台がおまちかね』『背表紙は歌う』など多数。

『よっつ屋根の下』

大崎 梢[著]／光文社

「転勤」という名の左遷により、東京を離れ銚子に勤務する父。そんな父について行った息子。同行を拒んで東京に住む妻と娘。転勤をきっかけに、親子はそれぞれに思いを巡らす。大事なことは何？それぞれの想いを綴った物語。『小説宝石』等の掲載を単行本化。

『だいじな本のみつけ方』

大崎 梢[著]／光文社

放課後の学校でつけた忘れ物は、大好きな作家・新木真琴の新刊だった。新刊を楽しみにしていた野々香は、さっそく書店に向かうが、発売は来週だと店員に告げられる。まだ発売されていないはずの本がなぜ学校に？野々香はクラスの図書委員と一緒に持ち主の正体を探るが...。本と人を巡るやさしい物語。

『本バスめぐりん。』

大崎 梢[著]／東京創元社

“この仕事、自分に向いているだろうか。”定年後の時間を持て余し、移動図書館バスの新人運転手となったテルさんこと照岡久志。司書のウメちゃんこと梅園菜緒と一緒に、今日も本バス「めぐりん号」を走らせる。巡回先でバスを待つのは利用者と様々な謎？『ミステリーズ!』掲載作品を書籍化。

『天才探偵Sen 公園七不思議』

大崎 梢[著]・久都 りか[画]
／ポプラ社

自ら壁新聞を作っている渋井千は、幼なじみの香奈と信太郎、同級生から頼まれてしかたなく七不思議を調べることに...。テストはいつも満点、成績は学年一、さつき小始まって以来の天才児・千が数々の謎と事件を解く！【小学5～6年生】

2006年に連作短編集『配達あかずきん』を発表して小説家デビュー。同年春まで書店員として勤務する。同じく書店勤務の経験がある漫画家により漫画化もされた『配達あかずきん』は書店を舞台としたミステリーであり、“成風堂書店事件メモ”シリーズとして『晩夏に捧ぐ』『サイン会はいかが？』等も出版されている。

児 童 室 1 月



おはなし会



土曜日

(第3土曜日) 場所：3階集会室

おひざのうえ (0~2歳くらい) 午後2:00~
 小さい人 (3~5歳くらい) 午後2:15~
 大きい人 (小学校低学年くらい) 午後2:40~

1/15 (土)

- おひざのうえ
「ぴったりこ」「りんごがコロコロリンコ」
- 小さい人
「おもち!」「ニひきのよくばりこぐま」
- 大きい人
「ゆめたまご」「かさじぞう」



水曜日

あかちゃんひろば

(第1・第3水曜日)
 場所：1階絵本コーナー
1/5(水)、1/19(水)
 午前11:00~11:20
 0歳~2歳くらいのお子さんと
 保護者向け

赤ちゃん絵本、わらべうた、手遊びなど



日曜日

(第2・第4日曜日)
 場所：1階ロビー
 2歳くらいから
1/9(日)、1/23(日)
 午前11:00~11:20
 季節の絵本や紙芝居など

1

今月の展示

『ふゆのほん』



日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5 	6	7	8
9 	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19 	20	21	22
23 	24	25	26	27	28	29
30	31					